

海老名市立柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和8年度 第1回)

- 1 日時** 令和8年6月20日(土) 9:00～11:00
- 2 場所** 海老名市立柏ヶ谷小学校 会議室
- 3 出席委員** 山崎久男委員、萩原正規委員、大矢和正委員、秋本博久委員、森田博明委員、増田芳夫委員、川島一起委員、松本孝夫委員、齊藤裕子委員、鈴木佳子委員、小林麻衣委員、藤原絵里奈委員、石井友紀(校長)、高橋一子(教頭)、鈴木理恵(教務主任)

4 会議の内容

(1) 校長挨拶

石井校長：小規模校であることの良さをいかし、家庭的で温かい雰囲気为学校にしていきたいと考えて教育活動を進めている。そのためには、地域の皆様のお力添えが欠かせない。学校運営協議会は、地域の皆様のご意見を頂戴できる貴重な場であるので、今日皆様とお話できることをうれしく思っている。

(2) 委員自己紹介(委嘱状交付)

自己紹介後、校長より委員へ委嘱状を交付。

(3) 会長・副会長の選出

会長に山崎委員を、副会長に萩原委員を選出。

(4) 議事(進行：山崎会長)

山崎会長：引き続き会長ということでお世話になります。時代に合った話ができるか分かりませんが、よろしくお願いします。

今年度の学校経営方針と今後の行事等について

石井校長：まずは、〈主な学校行事予定〉をご覧いただきたい。既に5年生が野外教育活動を実施した。富士山の側火山に登る「ふじさんぼ」を行ったが、今年はずっと雨と霧で視界が悪い上に寒かった。昼食も雨の中だったが、子どもたちは頑張って頂上まで行った。あまりの強風ですぐに下山となったが、砂走りで遊びながら降りてきた。下山後、一瞬だが晴れ間があり、学年写真の撮影ができた。「頑張ったご褒美に富士山が姿を見せてくれた」と話した。5年生はその二日間ですごくたくましくなったと感じる。次に〈令和7年度末離退任者〉についてだが、たくさんの職員が離退任し、新しい職員をたくさん迎えた。そのため、学校の雰囲気が変わったという印象をもたれる方もいらっしゃると思う。

次に、学校グランドデザインについてお話させていただく。大事なことは変わらずに続けていきたいと思っているので、今年度もこの形で学校経営を進めていきたいと考えている。一番根幹にあるのは、「すべての子ども

が大切にされるインクルーシブな学校」ということで、3年目の取り組みとなる。「すべての子どもが大切にされる」ということがどういうことなのかというと、まずは「自分らしさを否定されないこと」だと考える。一人ひとりが本来の自分を出せる場であり、それを誰にも否定されない学校でありたいと思っている。そのためには、子どもたちに自分のことを好きでいてほしい。自分のことをよく知り、自分自身を大切にし、自尊感情や自己肯定感をもってほしい。職員にもそういう声かけや雰囲気づくりをしてもらいたいと考えている。また、自分らしさを出した時に、学校という集団から排除されないことが「すべての子どもが大切にされる」ということでもある。多様性の尊重につながると思うが、学校には色々な人がいるということを互いに理解しながら生活できるようにしたい。それを根幹に置きながら、学校教育目標である「よく考え、学び合う子」「豊かな心、思いやりのある子」「健康でたくましい子」と、3本柱の[あたま][こころ][からだ]を意識して職員には教育活動にあたってもらっている。

[あたま]の部分についてだが、今年度も国語の研究を進めていく。[こころ]の部分については、縦割り活動を継続して行っていく。新体力テストは異学年の7～8人のグループで7種目をまわった。子どもたちも徐々に慣れ、低学年の手を引いて荷物を持ってあげたり、6年生が先に手本を見せたりする様子が見られた。また、早く終了したグループでは、待ち時間に高学年が低学年と一緒に遊んであげる様子も見られた。子どもたちにも縦割りの活動が定着してきた。互いを知ることによって、色々な子がいるのだと肌で感じてほしい。職員にとっても、自分のクラス以外の子どもを知ることになるので、すべての職員ですべての子どもたちを育てるという意識を醸成していきたい。これが柏小の文化となることを期待している。[からだ]の部分では、今年も新たな遊具を購入し、外で遊ぶ機会をたくさん設けていきたいと思う。

山崎会長：グラウンドデザインで、昨年と大きく違う部分はあるか。

石井校長：今年は教科担任制の充実を目指している。

山崎会長：[あたま]の部分に「言語活動を取り入れた授業づくりの研究」とあるが、何か特徴的な活動があるのか。また[からだ]の部分で「体力の向上」とあるが、体力のどのようなところが劣っているのか。

石井校長：言語活動についてだが、自分の言葉で表現することが苦手な児童が多い。経験や語彙力が足りないということもあるが、自分の言葉でうまく表現できないという実態もある。それが、あまりよくない行動につながってしまう場合もあると考えると、本当に言葉は大事だと感じる。職員には、子どもの考えを引き出すような授業展開をしてほしい。先生が説明したり確認したりして終わるのではなく、子どもたちの方からたくさん声が出て、それで授業が進んでいくということを意識して授業を進めてほしいと話している。国語の研究を始めて3年目だが、ようやく子どもたちが自分の考えを表現できるようになってきた。子どもたちから出てきた考えをどうつなげて授業を進めていくかは先生方の力量にかかってくる。質の向上を目指

しているところである。「体力の向上」についてだが、本校の児童は体を使うのが上手ではない。走る・跳ぶ・投げるに加え、消しゴムで消す作業、鉛筆で書く作業などもあまり上手ではない。幼いころから端末を使った遊びが多かったからか、基本的な体力がついていないと感じる。体幹の筋肉が育っていないと姿勢を維持するのが難しく、学習中に姿勢が崩れてしまう。そこが課題だと感じていたので、その筋肉を鍛えるために一輪車やトランポリンを購入した。遊びながら体力をつけてほしい。

齋藤委員：あそびっこに参加する児童は外遊びが好きな児童なので、比較的動きはいいが、転び方が下手。昨日も一輪車をしていた児童が転んだ。自分は年齢の割に姿勢がいいと言われる。それは、子どもたちが一輪車に乗るための補助を何年もやっているからだと思う。補助をすることによって、背筋が鍛えられている。日々の積み重ねが大きい。子どもたちは入学したときに一輪車に乗れるようになりたいと頑張って練習を続ける。そうやって練習を積み重ねていくことによって体力がつくのだと思う。ちょうどこの話題がパートナー間で出た。パートナーの仕事をするうちに自然と体力がついていい仕事だと話題になった。

石井校長：体力をつけるために遊具を揃えるという取り組みを始めてから3年目だが、新体力テストの数値は上がっている。継続していきたい。

松本委員：グランドデザインにある目指す教師像について。先生だけでなく、人間として大切なことがここに書いてある。小さい時から育てなければならないのが「情熱と意欲」「想像力と創造力」だと思う。しかし、年齢を重ねると挫折が多く、なかなか情熱や意欲は湧いてこない。そのための得策は何かあるのか。

石井校長：子どもたちに対しては、2年前に細かい「きまり」を全部なくして「たった一つの約束・自分もみんなも安全で気持ちのいい学校にしよう」という形で「きまり」を一本にした。それは、この「情熱と意欲」のためでもある。子どもたちが自分でこうやりたいと思ったら学校のきまりを変えられるという経験をしてほしかった。小学生はシャーペンを持ってきてはいけないというルールが不文律であったが、高学年になると使いたいという児童が出てくる。禁止はしていないので、どうして使いたいのか自分たちで話し合いをさせた。実際に6年生は使えるようになった。そうやって、自分たちの思いや声が世の中を変えられるという経験をさせたいなと思っている。

萩原委員：先ほど新体力テストの話が出たが、縦割り班のことについて少し感想を述べさせてもらう。新体力テストの時に保護者ボランティアとして参加した。娘が6年生でグループのリーダーをしている。リーダーシップをとるのが得意な班長のいるグループはスムーズに活動できていた。しかし、当然のことだが、苦手な子どももいる。少し路頭に迷う姿も見られた。そういうグループに対しては保護者ボランティアが声をかけて手助けをした。柏小の児童数の少なさを逆手に取ったこの活動は、上の子が下の子の面倒を見る、下の子は上の子に頼るという経験ができてよい。頼り方を学ぶというのはいい勉強になると思う。縦割り活動はとてもいい活動だと思う。

海老名市教育委員会より

- 海老名市フルインクルーシブ教育 対話の場～対話を通して考える～
- 委員が3グループに分かれて約1時間対話
- 市教委からの説明を聞きながら、グループごとに考えを交流

(5) 事務連絡

- ①この後、柏小まつりの見学を行う
- ②海老名市コミュニティ・スクール研修会兼中学校区学校運営協議会
R8.9.3（木）開催予定（参加希望者は6月中に学校に連絡）